

福井ふるさと学びの森あわらエリア第3回体験イベント 「夏の森散策 ～虫の視点で森を散策しよう～」

- 1 日時：平成28年8月6日（土） 8：30～12：00
- 2 場所：福井ふるさと学びの森あわらエリア（北潟国有林）・富津集落センター
- 3 参加者：一般県民29名（うち小学生以下15名）
- 4 指導者：里山里海湖研究所 ふるさと研究員 河田 勝治さん（あわらの自然を愛する会）
同 大南 新一さん（あわらの自然を愛する会）
- 5 内容：

福井ふるさと学びの森あわらエリアの第3回体験イベントを開催しました。

この日も、朝からたいへん暑い一日となりましたが、国有林の中に咲くヤブランやカワラナデシコ、オニユリ、オミナエシなどの希少な山野草に迎えられ、楽しく散策することができました。

植物だけでなく、2016 福井県レッドデータに要注目種として追加されたコシタカコベソマイマイというカタツムリを見ることもできました。

こうした生きものたちは、枝打ちや下草刈りなど人が手を加えないと生育、生息できなくなるものであることを学習してもらいました。



次に、カブトムシを飼育するための環境づくりに挑戦しました。参加者のみなさんが持参した飼育ケース内に里山を再現します。里山の生きものたちを育てている土をケース内に敷き詰め、その上に広葉樹の葉っぱを乗せます。落ち葉が堆積、分解してできた土は、そのまま幼虫のすみかとなりエサとなること、また、上に乗せた葉は乾燥を防ぐとともに、成虫の隠れ家として役立つものであるという話を聞きながら作業を進めました。さらに、あらかじめ集めておいた木の枝を適当な長さに切り、止まり木としました。

全員が完成したところを見計らって、カブトムシの成虫を配布すると、参加した子供たちは目を輝かせながら、自分たちが作った新たなすみかへ入れ、上からも横からも様子を観察していました。



最後に、富津集落センターへ戻り、あわら特産のスイカでデザートタイムとなりました。暑い中で活動した後ということもあり、そのみずみずしさとさわやかな甘さを満喫していました。